

スポーツ少年団活動の今後の在り方について

1964年の東京オリンピックに先がけてその2年前の1962年、一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供しようと結成されたのが日本スポーツ少年団です。半世紀以上が経過して間もなく二度目の東京オリンピックがやってきます。この機会に、本来スポーツ少年団が目指しているものは何かを原点に立ちもどりながら確認し、これからのスポーツ少年団活動の在り方を考えていきたいと思えます。

スポーツ少年団の3つの理念

- ・一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する
- ・スポーツを通じて青少年のこころとからだを育てる
- ・スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する（平成21年6月 追加）

スポーツ少年団は競技団体ではなく、子供たちの健全育成を目指す青少年団体です

スポーツ少年団活動は

主となるスポーツ活動のほか体カテスト（運動適性テスト）、レクリエーション活動、野外活動、学習活動、文化活動、社会活動などが年間・月間を通して計画的に位置づけられていなければなりません。

中学校の部活動が変わりました

「埼玉県の部活動の在り方に関する方針」（平成30年7月 埼玉県教育委員会）より

- ①活動時間の設定
 - ・平日の活動時間：長くとも2時間程度
 - ・休日の活動時間：長くとも3時間程度
- ②休養日の設定
 - ・平日：少なくとも1日
 - ・土日：少なくとも1日以上（週末に取れないときは振替える）
- ③オフシーズンの設定 長期休業中（夏休み・冬休み）は、一定程度長期の休養を設ける。

それでは少年団の中心となる小学生にとって理想のスポーツ活動とは

- ①1日あたりの活動時間は、平日・休日を問わず長くとも2時間程度。
- ②1週間あたりの活動日数は多くとも3日まで。土・日は多くともどちらか1日のみ。
- ③WBGT31℃（乾球温度35℃、湿球温度27℃）以上は活動中止。
- ④単一種目のみを行うのではなく、遊びを取り入れた多種多様な動きのできる活動を行う。

皆さんの団は大丈夫ですか？

- ※ 勝利至上主義になっていませんか？ 勝ち負けが団の話題の中心になっていませんか？
- ※ スポーツのやりすぎによって心身に障害をおこしている団員はいませんか？
- ※ 中学校の部活動より活動日数や活動時間が多くなっていませんか？
- ※ 猛暑の中で活動していませんか？ 熱中症になった団員はいませんか？
- ※ 主となるスポーツ活動のみで年間の活動が構成されていませんか？
- ※ 指導者・保護者の過大な負担や犠牲のうえに団運営が成り立っていませんか？
- ※ 県・市町村本部が行う交流事業や育成事業に積極的に参加していますか？

将来に向けた若い指導者の育成

スポーツ少年団は生涯スポーツの入口として、本来は成人になっても団員として登録ができる団体です。その意味からも『卒団』という造語（いつだれが造ったか不明）は、使わないようにしたいものです。その団で育った団員が将来指導者として活躍するという意味からもリーダー育成は重要な視点です。